

高校生産口ロボ体験

三明機工が
実演授業

【静岡】三明機工(静岡市清水区、久保田和雄社長、054・366・0088)は20日、静岡県立科学技術高校(静岡市葵区)の生徒を本社工場に招き、産業用ロボットを使った体験授業を行った。学校にはないアイムロボットを使って現場のプロが指導する授業

に、参加した7人の生徒は「実感がわいた」と目を輝かせていた。

体験授業は同高校制御工学科の科目「メカトロニクス応用」の一環。1回3時間で10回行う授業の初回と最終回を三明機工でロボットを使って行った。最終回の20日は学校の授業であらかじめ生徒が設計したファナック製の動作プログラム「ロボガイド」で、垂直多関節ロボットのピッキング作業の動作を実習した。



実機は高価なうえ、安全確保が難しく授業で扱えなかった。体系的な授業を行いたい学校側と久保田社長の「次代を担う若い技術者を育てたい」という思いが一致した。当日は静岡県産業部の担当者も見学を訪れ「学校と企業が連携した同様の取り組みがもっと県内で広がれば」と、実習の様子を興味深く見守っていた。